

ご卒業
おめでとーございませう

日本工業大学後援会 会報

第 113 号

発行 / 日本工業大学後援会

埼玉県南埼玉郡宮代町学園台四一
一〇四八〇三四一四二二(代)
令和二年三月二十日
<http://nikkouenkai.jp/>

R100

これから後援会をよろしく願います

会長 鈴木隆 (P4埼玉)



今年は例年より暖かい冬となり、二月の中旬には大学の周辺でも梅が見頃となっております。本年度も残すところあと僅かになりました。

本年度ご卒業の学生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これから人生の大きな節目を迎えることで、大きな期待感や抱負をお持ちになっていると思います。大学で身につけた実工学を武器に大いに活躍されることを期待します。

この季節になると私も遙か昔、社会人になったばかりのことを思い出すことがよくあります。やはり、仕事を始めた当初はモチベーションが高くて張り切って仕事に取り組んでいましたが、数ヶ月でモチベーションが低下してやる気が起きなくなってしまうました。よく、仕事をする際にはそのゴールが明確であるほどやりがいが大きく感じられると言われていますが、今考えてみると、まだ仕事を始めたばかりのころは、仕事の全

体像の把握が難しいことが多く、仕事の目標がはっきりとしていないためにモチベーションが低下したのだと思います。いろいろ試行錯誤して、最後に小さな目標をこつこつ積み上げることで肩の力がぬけたのか、モチベーションが細々と持続するようになりました。能力不足からか、大きな実績に繋がったということもありませんでしたが、いい経験だったと思っています。昔と今とでは社会を取りまく環境も大きく変わっていて、私の話もあまり参考にはならないかもしれませんが、我が子があつと意欲的に仕事を続けて生きていけるのが多くの親御さんの願いであり、御自分の体験は今後のお子様のサポートに大きな力になるかと思っています。

後援会は、今後ともそうした親御さんの願いをしつかり受け止めて、大学の人材育成のための取り組みを積極的に支援していきたいと思っています。ご卒業なさる親御さんにおかれましては、このユニークな後援会の存在を末永くご記憶いただければ幸いです。ご支援、ご理解ありがとうございます。

役員だより

継続は力なり

副会長

遠藤 徳彦 (福島県)



大学設立50周年、令和という新しい年の後援会の役員になれた事、何かの縁と思えました。最初の年は本部役員として1年間の流れが掴めず、5月の後援会総会、7月の学外理事會、9月、10月の地域別教育懇談会、また地域の町内会の役員も務めていたことからめまぐるしく過ぎていきました。特に初めての地域別教育懇談会では、千葉県支部を訪問させていただき、昼食会では学科別に先生を囲んで会食をし、最後にお土産としてさつまいもをもらえた事が印象的でした。アットホームでいい活動をしているなと感心したところでした。その後千葉県支部が継続の道を選択されました事大変うれしく思っています。

昨年の四国地方の本部主催の地域別懇談会では、鯉のタタキを塩と山葵で食べたのが大変おいしく、カラオケ三昧、なんと台風の影響で飛行機が欠航で、空港でキャンセル待ちをしてやっと帰れた事を思い出します。

また福島県も支部設立40周年を迎え、大学関係者はじめ福島県の初代支部長である茂木さんをお招きしました。設立当時の苦労話をお聞きしまして大変貴重な時間を過ごす事ができました。

やはり思いました事は、続ける事の難しさです。昨年のラグビーのワールドカップでも選手一人一人の役割は違い、誰が抜けてもうまく力を発揮できなくなります。我々後援会はボランティアが前提ではありますが、一人一人に役割



初代福島県支部長の茂木さん(左)と談笑する遠藤副会長

後援会に感謝

副会長

若佐谷 章 (青森県)



子どもたち小中高校のPTA活動に携わったことのない私が、4年前の後援会青森県支部主催の新人会員説明懇談会に出席しました。

遠くへ息子を出す不安感があり、学校生活等の詳細な説明があるということで参加したところ、青森県支部の役員会員の皆様和やかな雰囲気と事務局の方の分かりやすいご説明により、日本工業大学及び後援会に愛着を覚えること

同時に大学のこともっと知りたくくなり、役員をやらせていただきました。

その説明会において、後援会の最大事業である「学生の成績について先生方が説明して下さい」【地域別教育懇談会】の開催があることを聞いて大変興味をもち、地方でも開催しているこういう活動は、他の大学にはない素晴らしい事業と思いました。

2年目からは、青森県支部の仲間たちと本部理事を拝命し、全国の理事の皆様と出会い、いつの間にか、息子より、親の私が後援会活動を通じて楽しんでいました。

また、青森県支部においては、歴代にわたり役員同士の団結力があり、とても楽しく活動を行うことが出来ました。普段こういう活動に全く縁がなかった私にとって日本工業大学後援会は、新しい人生の楽しみ方を教えてくださいました。

このたび、息子と私の二人が同時に日本工業大学を卒業しますが、在学中（在任中）は役員・会員の皆様、大学の先生方、事務局の皆様には4年間、大変お世話になりました。心より感謝申し上げますとともに、今後の大学及び後援会の更なる発展を期待しております。ほんとうに「後援会」に感謝の気持ちでいっぱいです。

卒業にあたって

副会長

松本 岳男（静岡県）



シャイな性格で狭い人付き合いの私が、こんな活発な後援会で、最終的に本部役員まで務めさせていただきましたが、楽しく充実した4年間でした。

思い起こせば、4年前の支部の新入学者説明懇談会に妻が参加して、次の交流会も出席する予定が急遽都合が悪くなり、代わりに私が参加したのが始まりでした。

それからは、県の支部長や本部理事、2年連続で本部役員という後援会の階段を上がっていきまし



支部総会で挨拶する松本副会長

た。本部理事として初めて大学を訪れた当日に、何を血迷ったか、新任理事代表の

挨拶をお願いされた事がありました。そんな中で、学長をはじめ、事務局、先生、他支部の役員の皆様と交流できて、いろんな情報を提供していただけたので、とても感謝しています。

また、息子の方も無事卒業できそうなので、ありがとうございます。私の後援会からの卒業にあたって、少し不安がありまして、トークがあまり上手くならなかったので、お役に立ちそうな話が出来ず、不快に思われた会員の方が居たかもしれません。

最後に、正式には5月の総会で卒業しますが、私の事は嫌いななくても、後援会は嫌いにならないでください。

後援会

監事

濱川 一彦（東京都）



「PTAの役員になるんだけど」妻からの言葉である。東京の公立中学校で教師をしていた私は、「今どの学校でも役員になる人がいないで大変なんだ。やればいいじゃないか」と答えた。専業主婦

相談票

学科学年	
学籍番号	

学氏	生名	
会氏	員名	
連絡先	TEL	

相談票をご利用下さい

後援会では会員の皆様はこの相談票を通じて、学生の成績・生活・就職等のご相談窓口を開いています。右の票（便箋、ハガキでも結構です）に相談内容をご記入の上、後援会事務局宛にご送付下さい。関係部署と連携して、可能な限り回答いたします。

だった妻は、忙しそうにしながらも充実している様子が見え、友達付き合いが増えた。役員を降りた後も昔の仲間と遊びに行ったり、付き合いが続いている。

第三子である娘が、日本工業大学に入学すると言い出し、卒業生である私は非常に驚いたが、将来のことを考えた決断を聞き背中を押すことができた。

娘の入学から三年が過ぎ、後援会の役員依頼が舞い込みあつという間の一年間であった。役員の方々と、いろいろな機会でも語り合え、お互いの仕事や家庭のことを話し一氣に気心の知れた仲間になれ

た。また、全国の支部長様をはじめ、多くの方々と知り合うことができ、充実した一年であり、今後の自分自身にも勉強になった。卒業生として、保護者として関わることができ大きな縁を感じている。一年間共に役員として過ごしてきた仲間には、今後も連絡を取り親交を深めていきたい。

最後に、後援会事務局の皆様にはたくさん支えていただき感謝している。今後とも全国の後援会の皆様と手を携え、日本工業大学のために後援会活動が末永く続いていくことを祈っている。